

## 海外留学生のキャリア意識と就職活動調査

2024年4月発行

深刻な人手不足を背景に、日本国内における人材獲得競争が激化している。国境を超え活躍が期待されるグローバル人材の採用を強化する企業が増える中、語学力や異文化理解力を持つ留学経験者の採用ニーズは高まっている。株式会社キャリアタスでは、海外の大学で学ぶ正規留学生や交換・派遣留学生を対象に、職業観や就職活動に関する調査を実施した。比較可能なものに関しては、国内学生（キャリアタス就活・学生モニター）の調査結果を引用しながら、その特徴を分析したい。

## 【主な調査内容】

- |                            |       |     |
|----------------------------|-------|-----|
| 1. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由      | ..... | P2  |
| 2. 志望業界                    | ..... | P3  |
| 3. 志望職種                    | ..... | P4  |
| 4. 就職先企業を選ぶ際に重視する点、希望する働き方 | ..... | P5  |
| 5. 魅力を感じる採用形態              | ..... | P7  |
| 6. ベンチャー／スタートアップ企業への関心     | ..... | P7  |
| 7. 就職活動の情報源                | ..... | P8  |
| 8. 企業研究をする上で知りたい情報         | ..... | P8  |
| 9. 企業に評価してもらいたいこと          | ..... | P9  |
| 10. インターンシップ等の経験           | ..... | P10 |
| 11. 留学をした感想                | ..... | P11 |

## 【参考】留学費用

## 《調査概要》

調査対象：CFN (www.careerforum.net) に登録している【日本人留学生】のうち、卒業時期が2023年5月以降の者 11,388人

調査方法：インターネット調査法

調査期間：2024年3月1日～3月22日

有効回答数：554人

回答者の属性 単位：人

留学形態	全体	文系	理系	卒業(予定)年月	全体	留学先地域・国	全体
正規留学	236	172	63	～2024年3月	113	北米	245
交換・派遣留学	273	243	23	～2025年3月	286	英国	100
語学留学	37	-	-	2025年4月～	155	その他ヨーロッパ	129
その他	8	-	-			オセアニア	25
						アジア	50
						その他	5

※国内学生の調査結果は「キャリアタス就活 学生モニター調査」より

### 1. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由

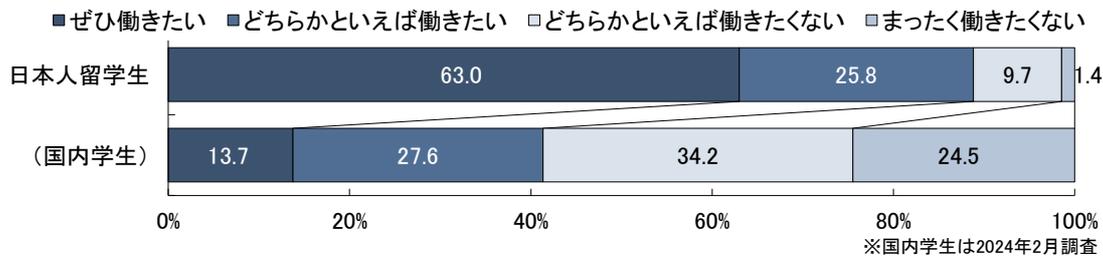
海外の大学への留学経験をもつ日本人留学生は、どのような仕事に就きたいと考えているのだろうか。志望業界や職種のほか、キャリア観などをいくつかの指標で尋ねた。

まず、日本国外（海外）での勤務について希望を尋ね、国内の大学・大学院で学ぶ学生（以下、国内学生）と比較した。留学生は「ぜひ働きたい」が6割強（63.0%）。「どちらかといえば働きたい」（25.8%）も含めると9割近くに上り（計88.8%）、海外勤務への意欲は極めて高い。一方、国内学生は4割程度にとどまる（計41.3%）。

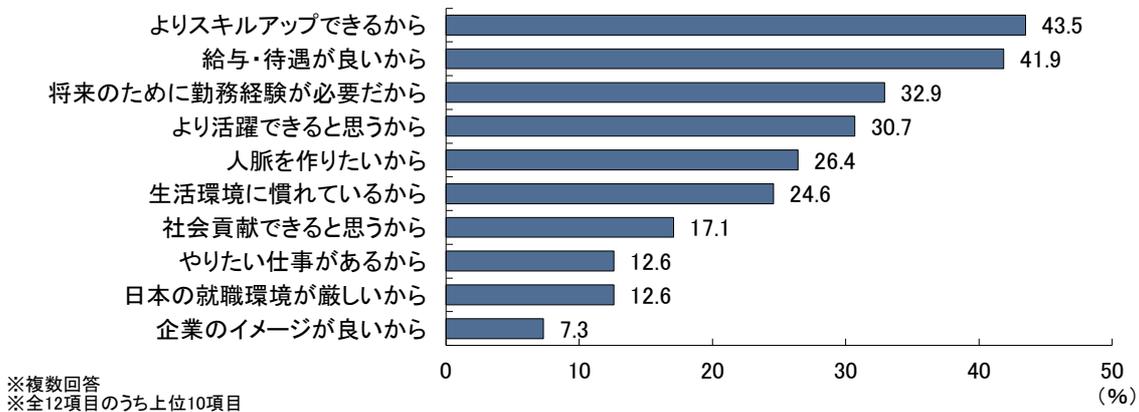
留学生が海外で働きたい理由を見ると、「よりスキルアップできるから」（43.5%）が最も多く、「給与・待遇が良いから」（41.9%）も4割超と高い。次いで「将来のために勤務経験が必要だから」「より活躍できると思うから」が3割台で続く。キャリアアップのために海外勤務を希望する傾向が強い。

働いてみたい国や地域は、「北米」（68.3%）が最多で、僅差で「ヨーロッパ」（66.7%）が続く。「オセアニア」（43.7%）、「東南アジア」（43.1%）が4割台。留学先として人気が高い地域ほど、勤務意向も高く、就職後にも留学先の国・地域と継続的に関わりたいという考える人も多いのだろう。

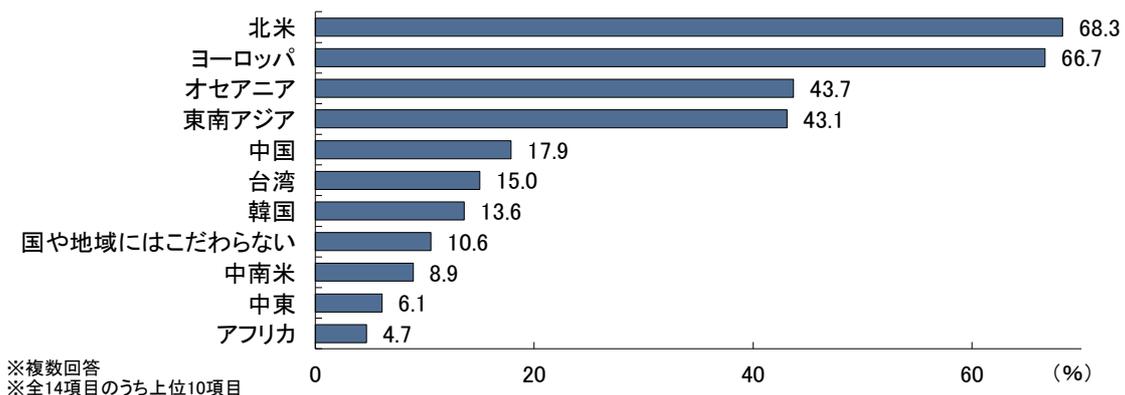
#### 日本国外での勤務希望



#### 日本国外で働きたい理由



#### 将来の希望勤務国・地域



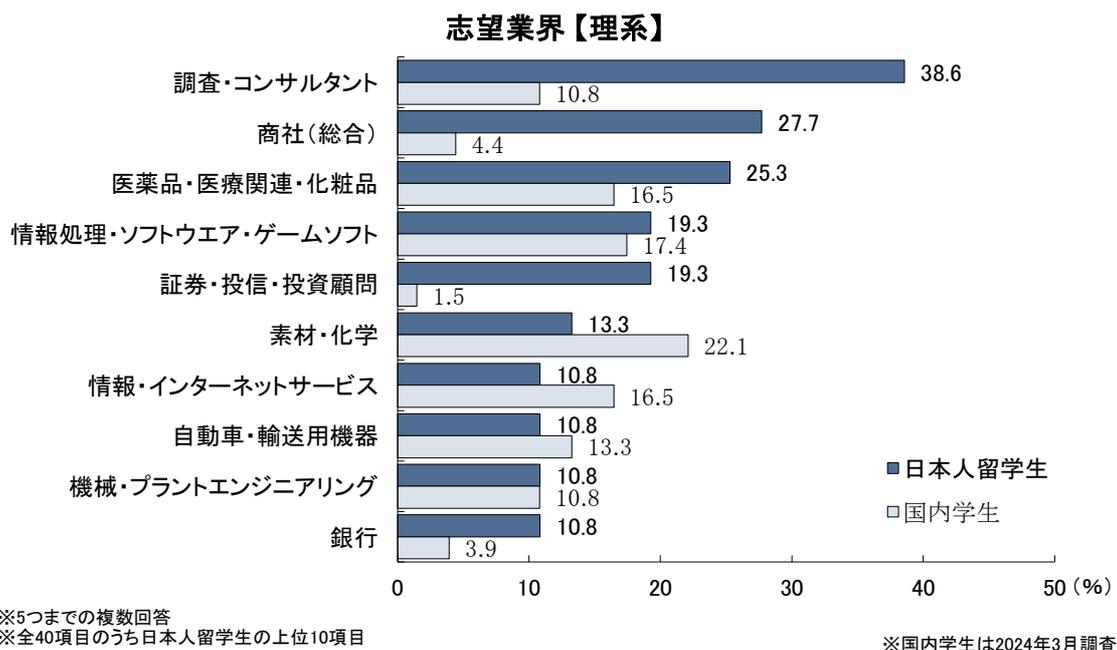
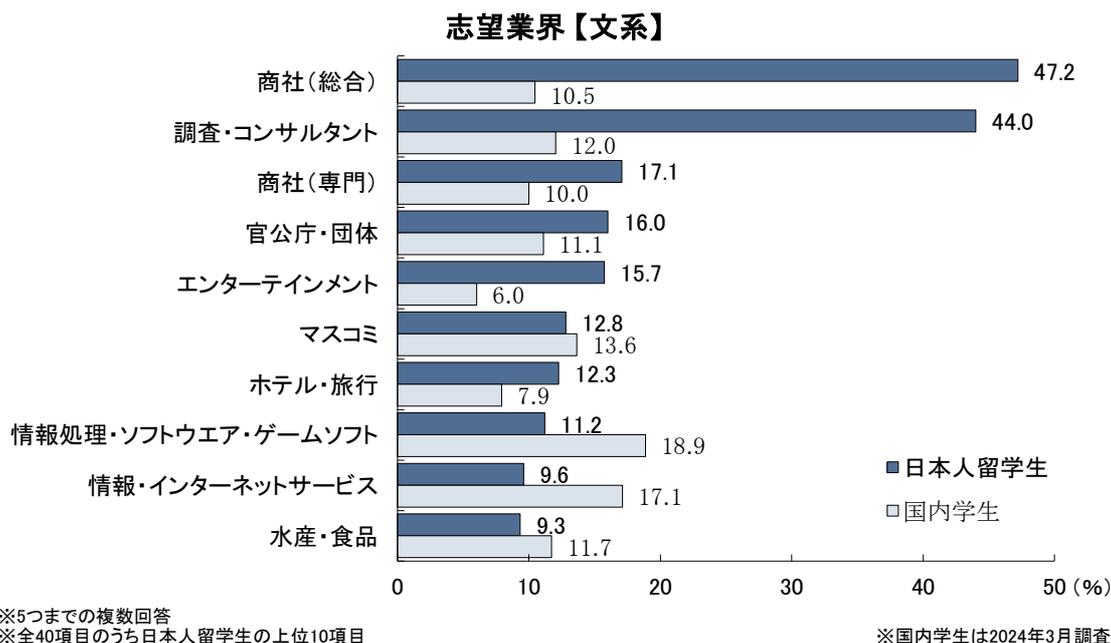
## 2. 志望業界

続いて、志望業界を文理ごとに集計し、国内学生と比較した。

文系を見ると、留学生は「商社（総合）」（47.2%）と「調査・コンサルタント」（44.0%）の2業界に人気集中している。同時期に調査した国内学生の文系は「銀行」が最多だが、留学生では13位（7.5%）。

理系は、留学生は「調査・コンサルタント」が最多で、4割近くが選んだ（38.6%）。次に「商社（総合）」が続く（27.7%）。国内学生の理系は「素材・化学」「電子・電機」といったメーカーが上位に入っている。

文理とも、留学生と国内学生の志望業界の差が顕著に表れている。



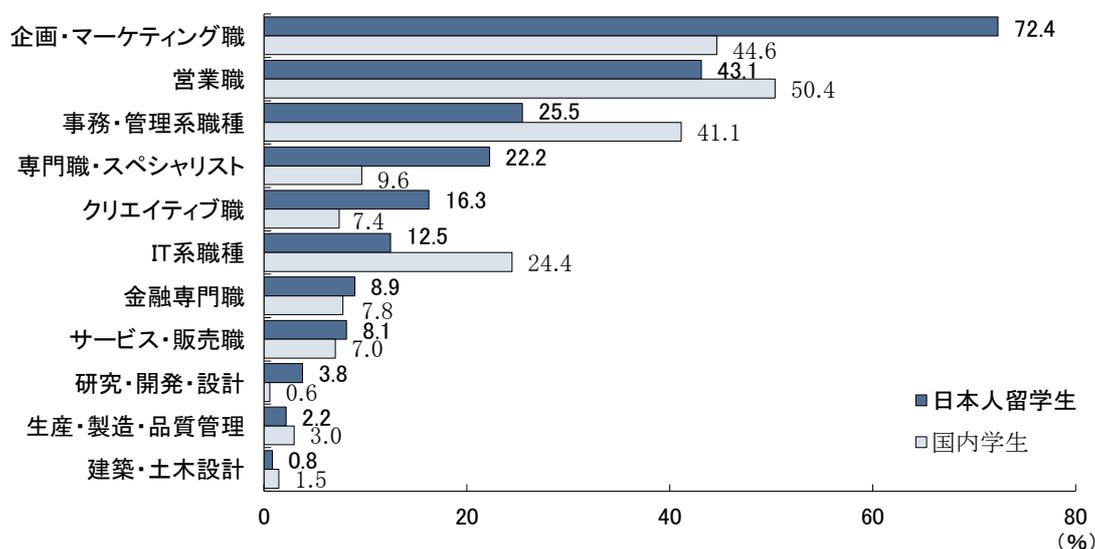
### 3. 志望職種

志望する職種を、11職種から3つまで選んでもらい、文理ごとに集計した。

留学生の文系は「企画・マーケティング職」が圧倒的に多く、7割超が志望（72.4%）。国内の文系学生に比べ、30ポイント近く高い。続く「営業職」（43.1%）と「事務・管理系職種」（25.5%）は、国内学生の方が志望する割合が高い。

理系は、留学生で「企画・マーケティング職」が最も多く（32.5%）、「IT系職種」（30.0%）が続く。国内学生も「IT系職種」は3割台が志望してるが、「企画・マーケティング職」は1割台（14.6%）で、その差は20ポイント。一方、留学生で3番目の「研究・開発・設計」（27.5%）は、国内学生では半数近くが選んだ（48.7%）。コンサルタントや商社を志望する留学生とメーカー志望者の多い国内学生とで、志望職種にも違いが表れている。

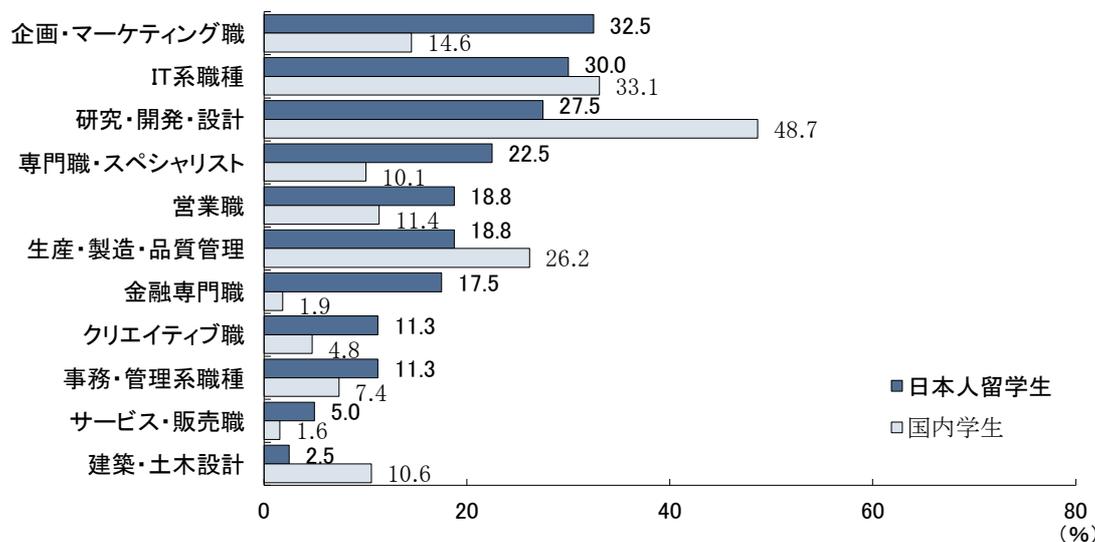
志望職種【文系】



※3つまでの複数回答

※国内学生は2024年3月調査

志望職種【理系】



※3つまでの複数回答

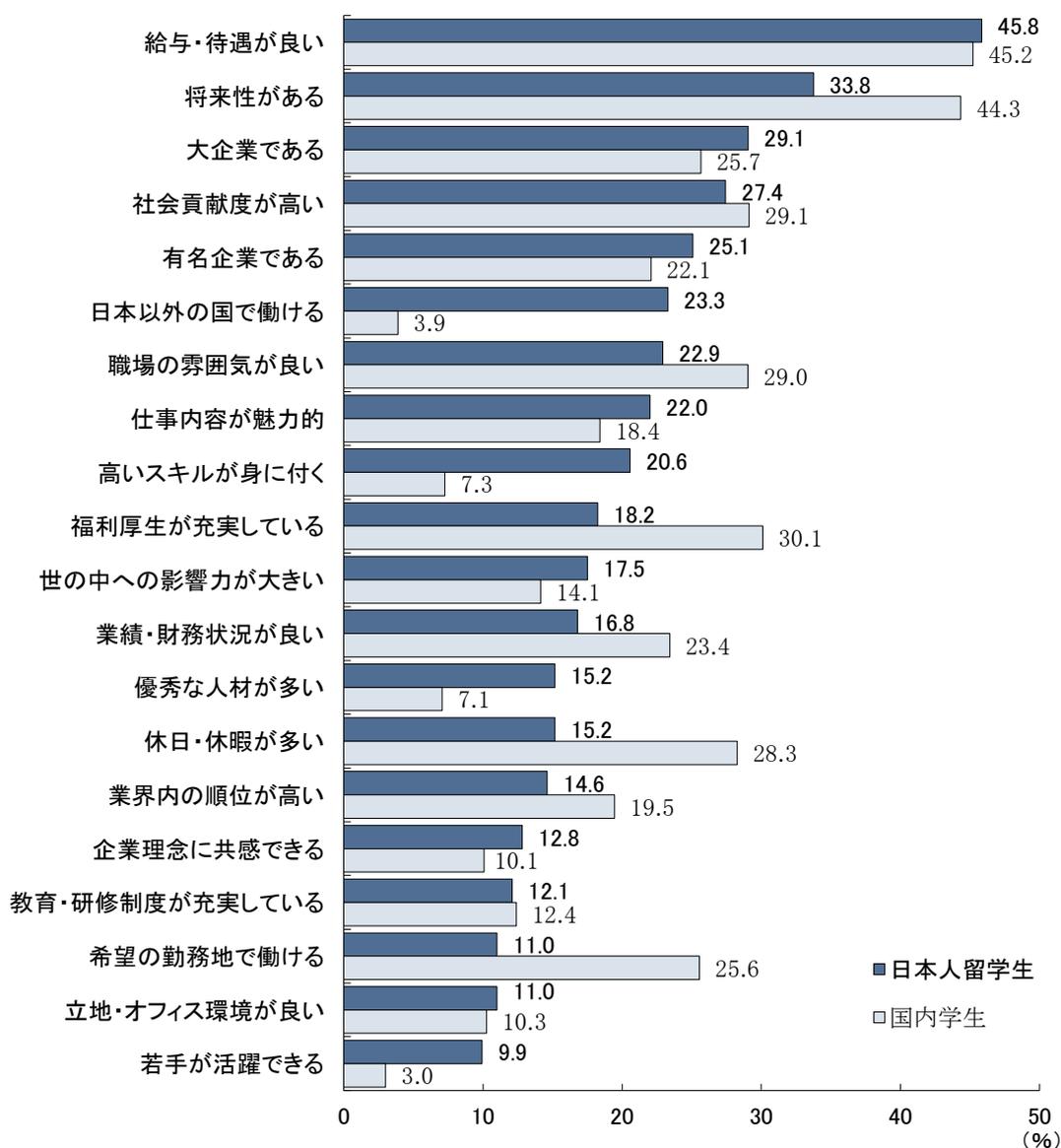
※国内学生は2024年3月調査

#### 4. 就職先企業を選ぶ際に重視する点、希望する働き方

就職先企業を選ぶ際に重視する点を30項目から5つまで選んでもらい、国内学生の回答と比較した。留学生・国内学生とも「給与・待遇が良い」が最も多く、留学経験にかかわらず、重視する学生が多いことがわかる。2位も「将来性がある」で共通しているが、国内学生の方が重視する学生が多い（10.5ポイント差）。

また、「日本以外の国で働ける」「高いスキルが身に付く」「優秀な人材が多い」といった項目は、留学生の方が大きく上回っており、自身がスキルアップできる環境を求めていることが読み取れる。「福利厚生が充実している」「休日・休暇が多い」「希望の勤務地で働ける」「業績・財務状況が良い」などの項目は、国内学生の方が上回っており、安心して働ける環境を求める学生が多いことがうかがえる。

就職先企業を選ぶ際に重視する点



※5つまでの複数回答  
 ※全30項目のうち日本人留学生の上位20項目

※国内学生は2024年1月調査

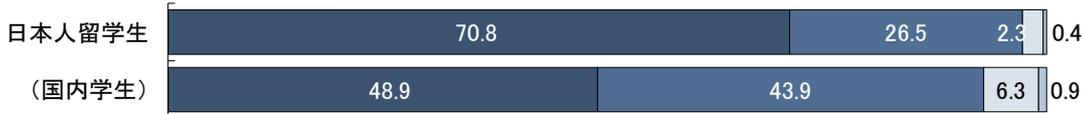
次に、就職先企業選びに下記の3つの項目がどの程度影響するかを尋ね、国内学生と比較した。

「(1) 仕事を通して成長できること」は、留学生の7割超が「とても影響する」と回答(70.8%)。「(2) 多様性のある職場環境であること」は、「とても影響する」が4割超(44.0%)。いずれも国内学生より高く、その差が顕著。「(3) 柔軟な働き方ができること」は、「影響する」の合計が、留学生・国内学生ともに8割を超え、共通して関心が高い。

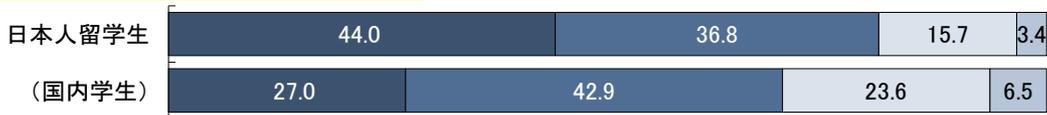
### 就職先企業選びへの影響度合い

■とても影響する ■ある程度影響する □あまり影響しない □まったく影響しない

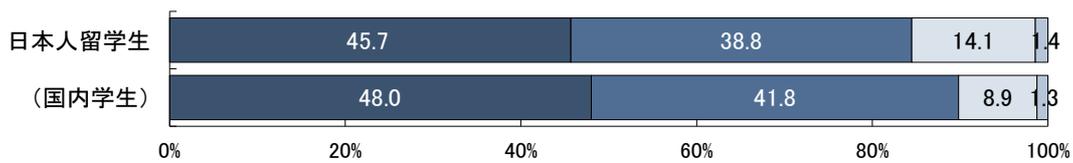
#### (1) 仕事を通して成長できること



#### (2) 多様性のある職場環境であること



#### (3) 柔軟な働き方ができること



※国内学生は2024年1月調査

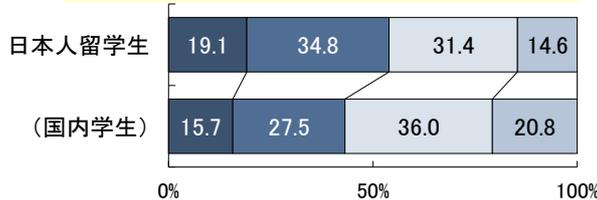
続いて、働き方の指標について対照的な項目を示し、希望に近い方を選んでもらった。

まず、「1つの分野で専門性を高めたい」と考える留学生は合わせて53.9%で、国内学生(計43.2%)を上回る。「キャリアパスは自分で主導権をもちたい」という留学生は9割を超え(計90.6%)、自律的にキャリアを形成したいと考える留学生が大半だ。「仕事が多少忙しくても早く出世したい」は、留学生は7割を超えるのに対し(計72.0%)、国内学生は4割にとどまる(計41.6%)。

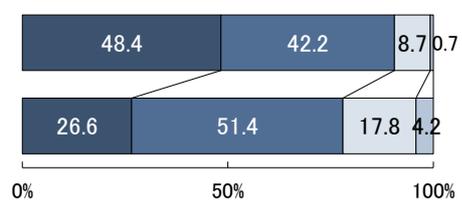
### 働き方についての考え

■Aに近い ■ややAに近い □ややBに近い □Bに近い

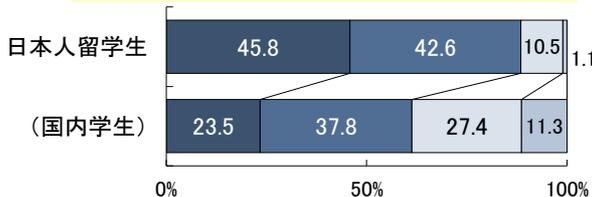
#### A. 1つの分野で専門性を高めたい B. 幅広い業務を経験したい(ジョブローテーション)



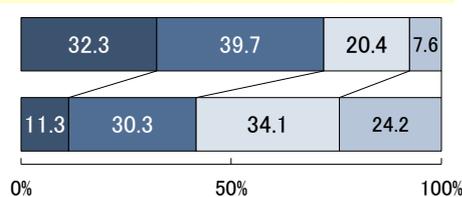
#### A. キャリアパスは自分で主導権をもちたい B. 会社に任せたい



#### A. 人よりも能力やセンスを評価されたい B. まわりから浮かないようにしたい



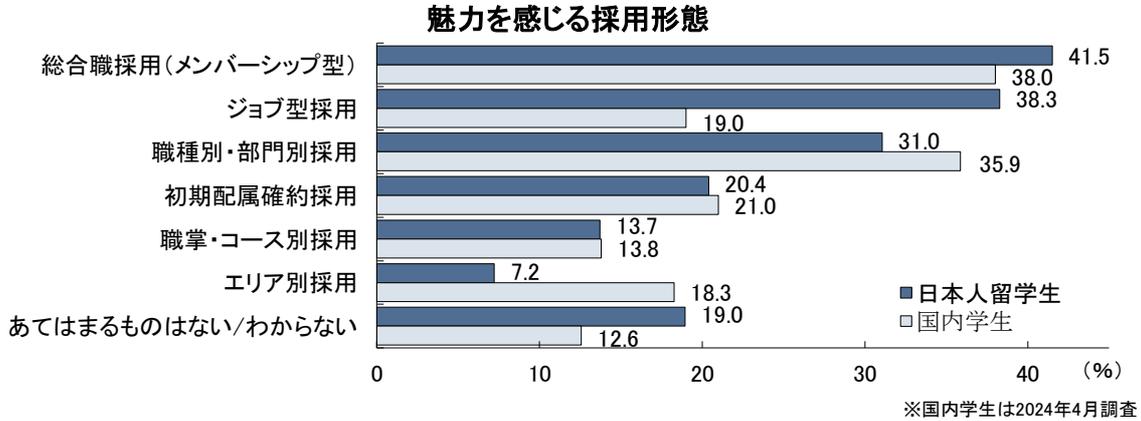
#### A. 仕事が多少忙しくても早く出世したい B. 出世するより自分のペースで仕事がしたい



※国内学生は2024年2月調査

### 5. 魅力を感じる採用形態

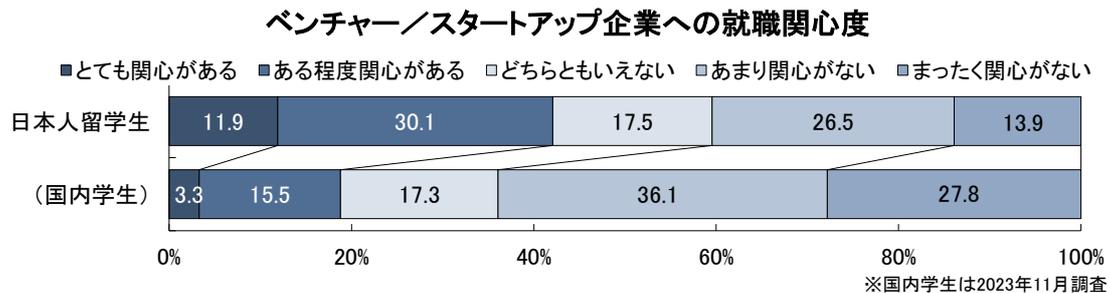
続いて、どのような採用形態に魅力を感じているのかを尋ねた。留学生・国内学生ともに「総合職採用（メンバーシップ型）」が最多。留学生では「ジョブ型採用」が次いで多く、4割近くが選んだのに対し（38.3%）、国内学生は2割未満（19.0%）にとどまっており、志向の違いが表れている。



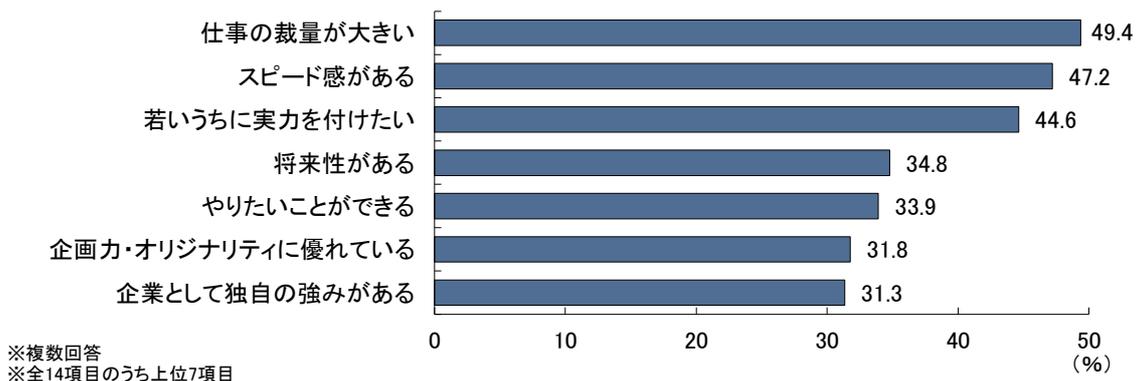
### 6. ベンチャー／スタートアップ企業への関心

留学生と国内学生の双方にベンチャー企業やスタートアップ企業への就職意向を尋ねた。留学生は「とても関心がある」（11.9%）、「ある程度関心がある」（30.1%）を合わせて4割超が、ベンチャー企業への就職に関心があると回答した（計42.0%）。国内学生ではその半数にとどまる（計18.8%）。

留学生がベンチャー企業に関心を持つ理由としては、「仕事の裁量が大きい」「スピード感がある」「若いうちに実力を付けたい」など、個人の成長に繋がるような項目が上位に挙がった。スキルアップや自身の成長に重きを置く留学生にとって、若手のうちから裁量権を持たせてもらえそうなベンチャー企業の環境は魅力的に映るのだろう。



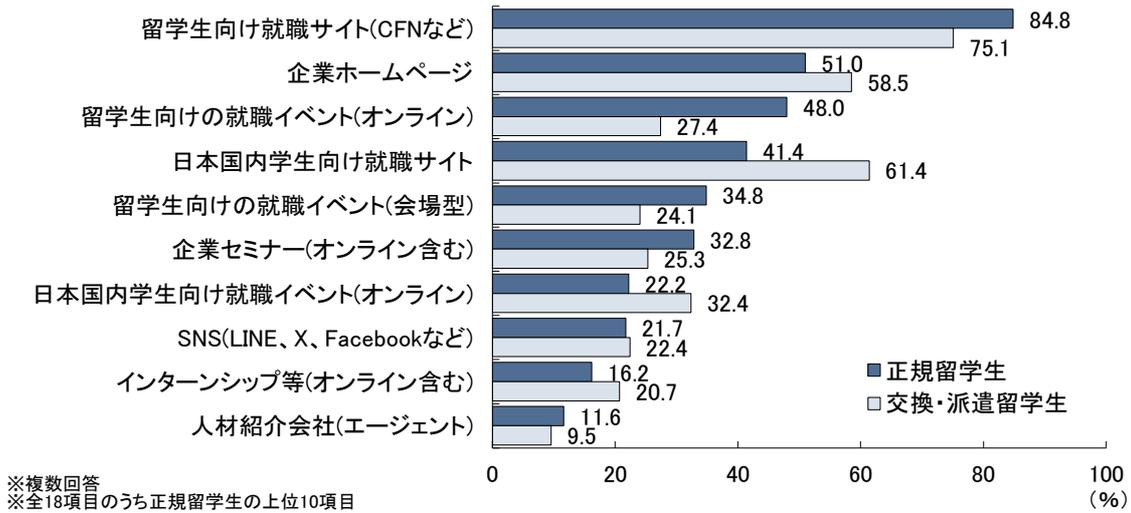
### ベンチャー／スタートアップ企業に関心を持っている理由



### 7. 就職活動の情報源

就職活動の情報源を尋ね、正規留学生と交換・派遣留学生とで比較した。正規留学生の情報収集は「留学生向け就職サイト」(84.8%)が突出して高く、次に「企業ホームページ」(51.0%)、「留学生向けの就職イベント(オンライン)」(48.0%)が続く。交換・派遣留学生も「留学生向け就職サイト」が最多(75.1%)。「日本国内学生向け就職サイト」を6割強(61.4%)が選んでおり、併せて活用する学生が多いことが読み取れる。

就職活動の情報源

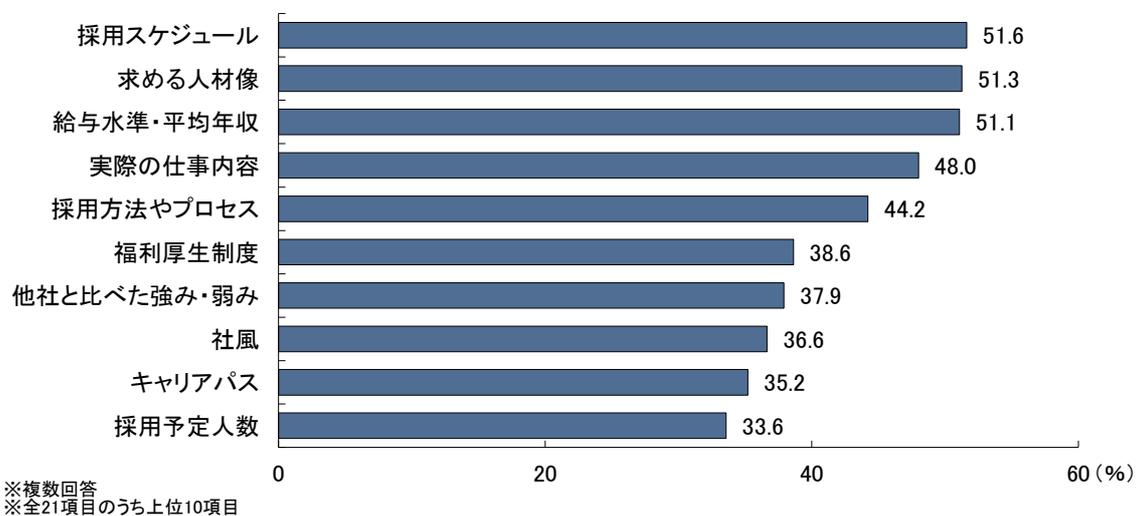


### 8. 企業研究をする上で知りたい情報

企業研究をする上で知りたい(知りたかった)情報について尋ねた。「採用スケジュール」(51.6%)、「求める人材像」(51.3%)、「給与水準・平均年収」(51.1%)の3項目は、それぞれ過半数が選んだ。「実際の仕事内容」(48.0%)、「採用方法やプロセス」(44.2%)が4割強で続く。

留学生に特化した採用選考の有無や時期、プロセスにとどまらず、具体的な業務内容や入社後の待遇などに関する情報を必要とする学生が多い。留学生は、国内学生と比べて企業と接点を持つ機会や情報入手ルートが限られており、様々な角度からの情報発信が求められていると言えるだろう。

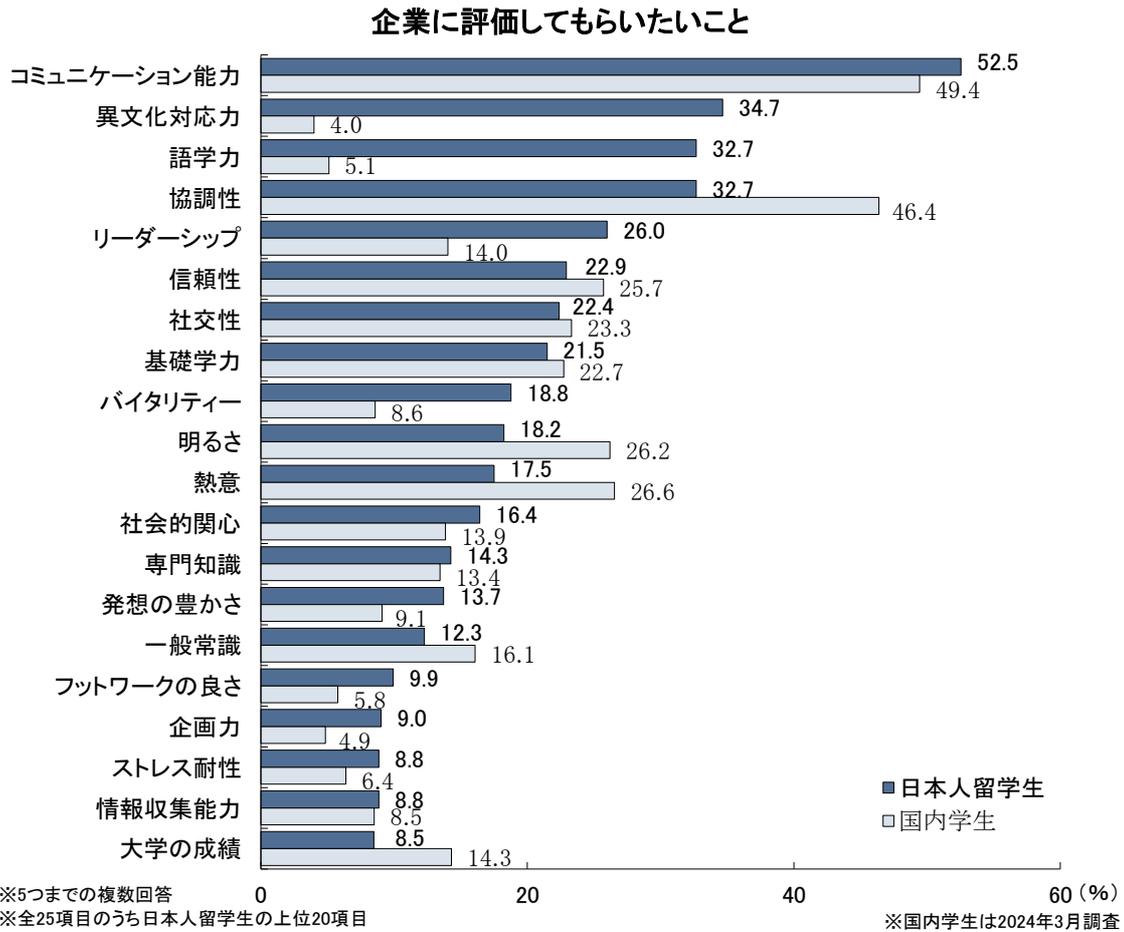
企業研究をする上で知りたい情報



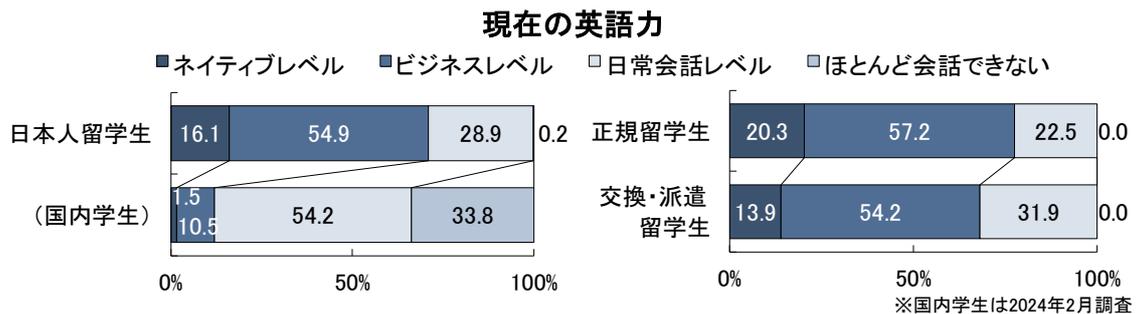
### 9. 企業に評価してもらいたいこと

採用選考にあたって企業に評価してもらいたいことを尋ね、国内学生と比較した。最も多いのは、留学生・国内学生ともに「コミュニケーション能力」。留学生は、「異文化対応力」「語学力」「リーダーシップ」「バイタリティー」などの項目が国内学生より高く、その差が顕著。留学経験を通じて向上させた能力やスキルを評価してもらいたいと考える学生が多いことがうかがえる。

一方、国内学生は「協調性」「熱意」「明るさ」などのポイントが留学生よりも高く、人柄や会社に対する想いを評価してもらいたい学生が多いようだ。



なお、留学生の現在の英語力は、「ネイティブレベル」が16.1%、「ビジネスレベル」が54.9%と、ビジネスで英語を使うことができるとの回答が7割超に上り（計71.0%）、国内学生（計12.0%）に比べ圧倒的に高い。

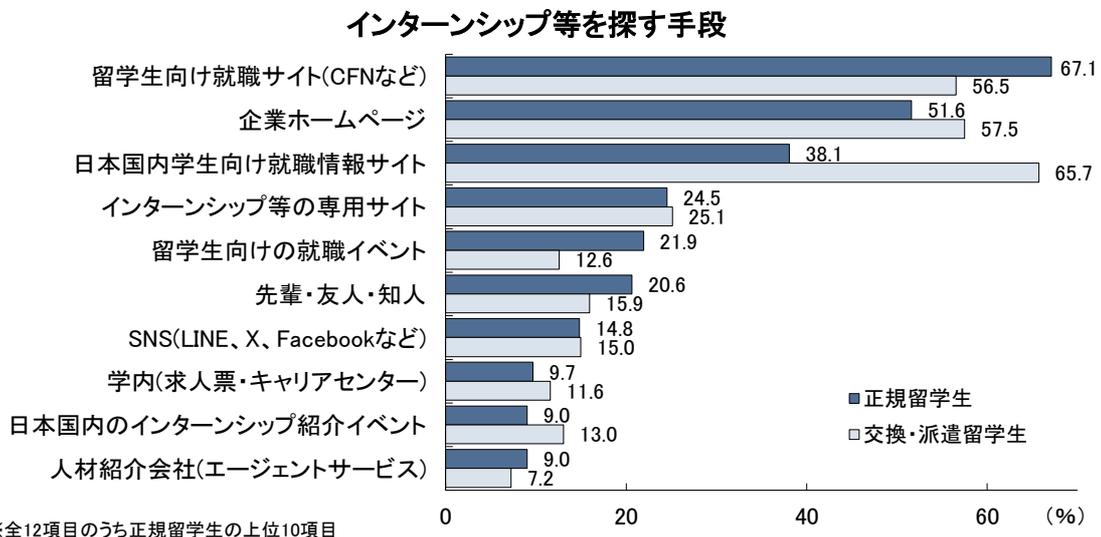
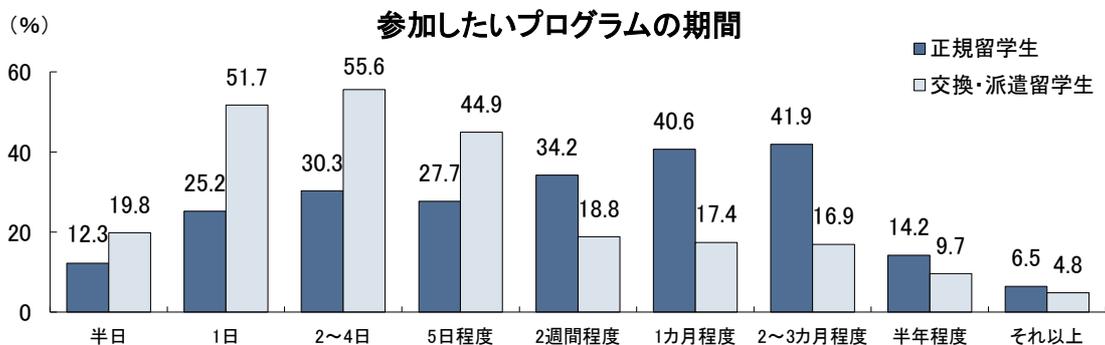
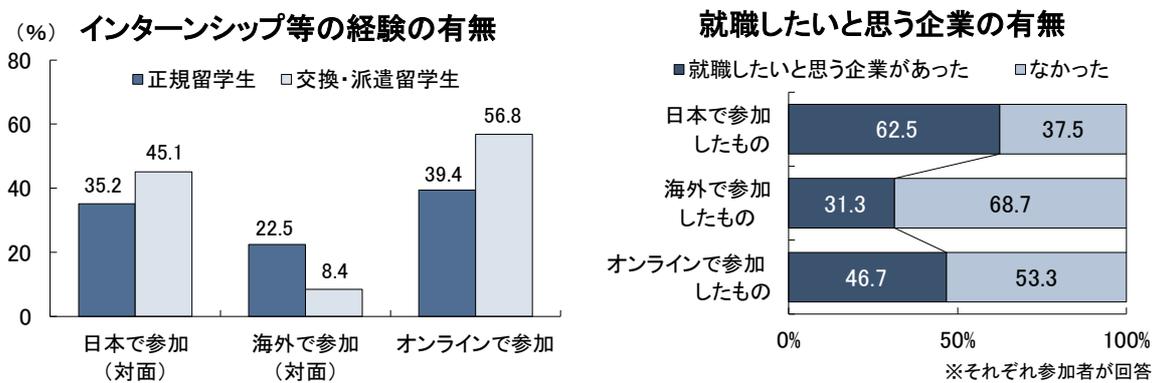


### 10. インターンシップ等の経験

インターンシップ等のプログラムへの参加経験を、就業場所・形式ごとに尋ねた。正規留学生は「日本で参加」「オンラインで参加」とともに3割台で、海外留学中でも一定数参加していることがわかる。交換・派遣留学生は「日本で参加」（45.1%）、「オンラインで参加」（56.8%）。

参加企業の中に、就職したいと思う企業があったかを重ねて尋ねた。「日本で参加したもの」では6割超（62.5%）、「オンライン」では半数近く（46.7%）就職したい企業があり、インターンシップ等への参加をきっかけに就職先として志望する学生も少なくないことがわかる。

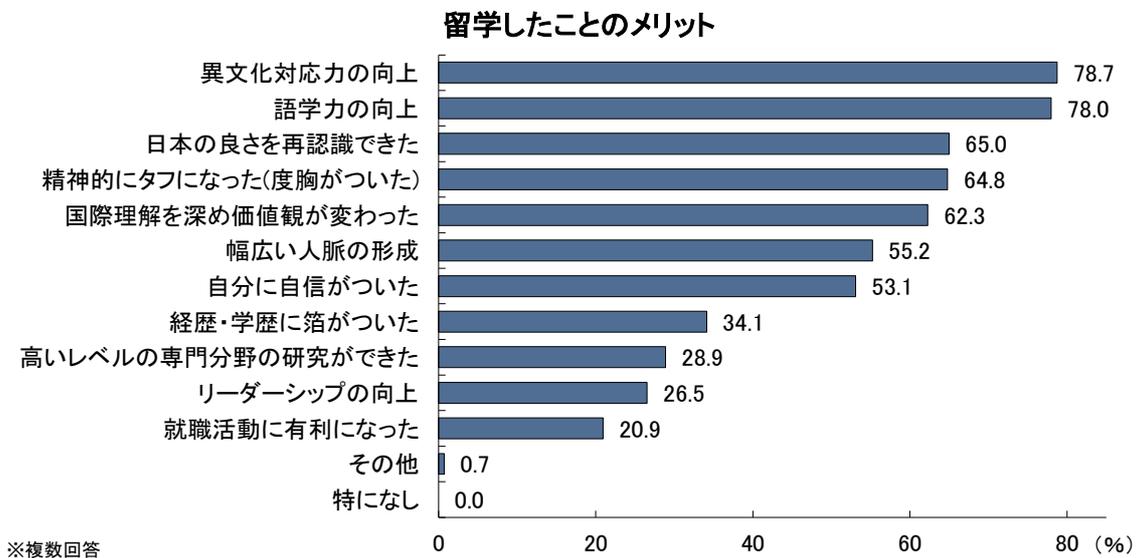
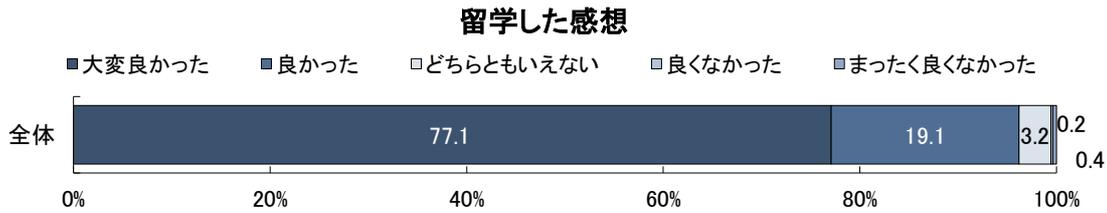
なお、場所や形式にかかわらず、どのくらいの期間のものに参加したいかを尋ねたところ、交換・派遣留学生は「2~4日」「1日」「5日程度」など短期のものが多いのに対し、正規留学生は「2~3カ月程度」「1カ月程度」など、長期プログラムへの参加を希望する割合が高い。



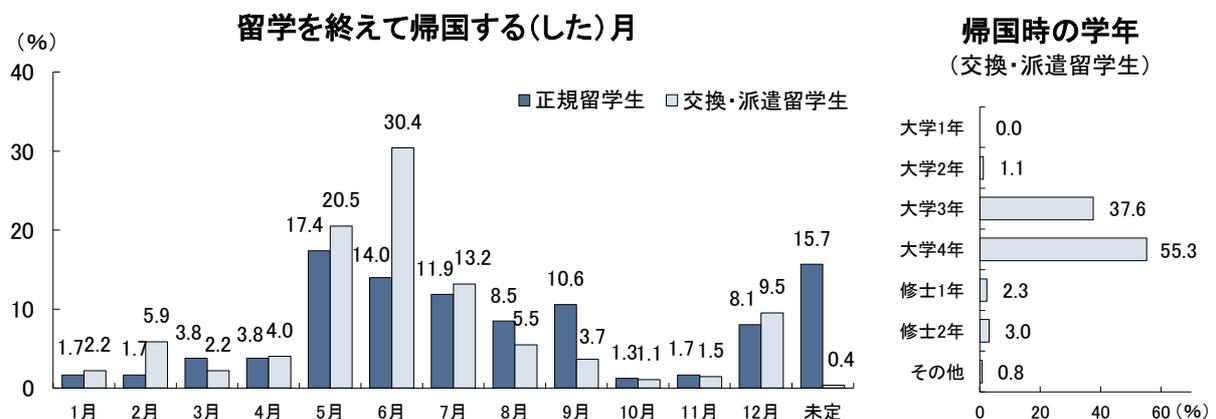
### 11. 留学をした感想

最後に、留学全般についての感想を尋ねた。「大変良かった」が8割近くに上り（77.1%）、「良かった」（19.1%）を合わせると96.2%と、満足度は極めて高い。

留学の成果としては、「異文化対応力の向上」（78.7%）、「語学力の向上」（78.0%）、「日本の良さを再認識できた」（65.0%）、「精神的にタフになった」（64.8%）、「国際理解を深め価値観が変わった」（62.3%）などが上位に挙げられた。グローバル人材として活躍する上での素養を、留学を通じて培うことができた留学生が多いことがうかがえる。



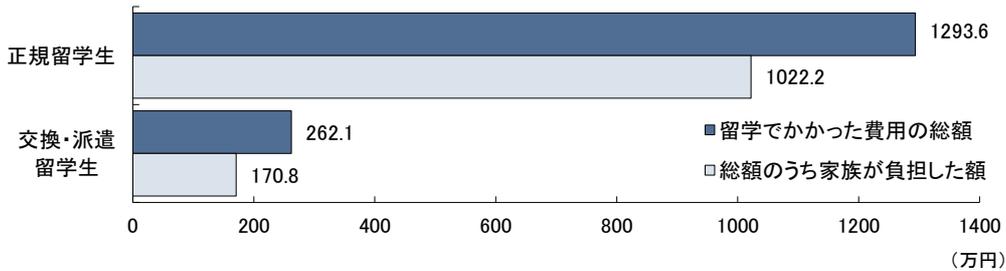
なお、留学を終えて帰国する時期は、正規留学生、交換・派遣留学生ともに5月と6月が多い。交換・派遣留学生の帰国時の学年は「大学4年生」が最も多く5割強（55.3%）。



**【参考】留学費用**

留学費用について、実際にかかった額と、そのうち家族が負担した額を尋ねた。正規留学生の費用の総額は平均1293.6万円で、留学期間が比較的短い交換・派遣留学生（262.1万円）の5倍近くに上る。また、留学形態に関わらず費用の多くを家族に頼っており、平均で7割前後を家族が負担している。

留学でかかった(かかる予定の)費用



**■留学して良かったこと**

- 日本から一度離れてみたことによって改めて日本の良さとおさを両方認識することができてよかった。また、異国の地で、1人で生活する大変さを経験して、精神的にも体力的にもタフになったと感じる。 <正規留学>
- 日本では経験できない高いレベルの研究ができたから。 <正規留学>
- 日本で働きたいと思えるようになった。一方で、日本で海外と関わりながら働く手段を得られた（語学力など）。 <交換・派遣留学>
- バックグラウンドが違う方々に出会い交流していく中で視野が広がった。 <交換・派遣留学>
- 自分の学びたいことをより深く、英語で学ぶことができた。また、日本との比較研究を実際の環境で行うことができた。 <交換・派遣留学>

**■留学によるキャリア観への影響**

- 学業を通して専門性が身についたぶん、それを必ず活かしたいと思うようになった。 <正規留学>
- 海外経験を活かせる外資系企業や、日系企業でも海外を主戦場に行っている企業への興味がとても強くなった。 <正規留学>
- 元々は待遇がいい会社に入りたいと思っていたが、留学して日本の素晴らしさやものの品質の良さなどに気づき、日本の良さを海外に広めることができるグローバル企業に勤務したいと思いました。 <正規留学>
- 同じ海外大生から話を聞いたことで幅広いキャリアが描けることに気がついた。 <正規留学>
- 海外への過度な羨望がなくなり、日本で働くことのメリットも再確認できた。 <交換・派遣留学>
- 転職、転職をすることや、人とは異なるキャリアパスを進むことへの抵抗がなくなった。 <交換・派遣留学>
- 就職後に大学院に行く人がたくさんいて、学業復帰という新しいキャリアの選択肢を得た。 <交換・派遣留学>

**■留学中の就職活動で苦労したこと**

- 就活時の情報収集の面で困りました。学校にOB・OGが存在せず、日本の大学に通う就活生のように縦のつながりが持てず、情報が不足して常に精神的不安が大きかった。 <正規留学>
- 学業が忙しすぎて就活に時間をさけない。 <正規留学>
- 卒業に時間がかかるので、人より年を取ってしまうことが日本の就活に不利になりそう。 <正規留学>
- 留学中に日本で開催される説明会などに参加するのが、時差の関係で大変だった。 <交換・派遣留学>
- 留学中には、対面面接が必須の日系企業に応募できないこと。 <交換・派遣留学>